

第7回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム開会式

鈴木貴子外務副大臣ステートメント

サル・セネガル共和国大統領閣下

御列席の皆様

第7回ダカール国際フォーラムの開会に際し、日本政府を代表してご挨拶申し上げます。はじめに、本フォーラムを開催されたサル大統領をはじめとするセネガル政府の皆様にご敬意を表します。日本として、第1回目以降継続してこの重要なフォーラムの開催を支援していることを喜ばしく思います。

日本は、アフリカの「オーナーシップ」と国際社会との「パートナーシップ」を掲げた、包摂的なプラットフォームであるTICADを通じ、アフリカ自身の平和と安定の維持・強化に向けた前向きな取組を後押ししてきました。前回会合において紹介した「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ、NAPS^ナ^プ^サA」もその一つです。日本は、G5サヘルを含む西アフリカ諸国を対象とした刑事司法分野での人材育成、テロ対策強化のための国境管理能力の向上支援、PKO訓練センター支援や国連三角パートナーシッププロジェクトを通じたアフリカ各国のPKO要員に対する能力構築支援など、NAPS Aの下での具体的な取組を進めてきています。



また、日本は、人間の安全保障の理念に立脚し、すべての人が効果的で良質な保健医療サービスを負担可能な費用で受けられるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けた取組を、セネガルを始めとする各国で推進しています。新型コロナの感染拡大を受けて、アフリカの保健医療システムを中長期的に支える取組を引き続き実施していきます。

新型コロナの流行は、アフリカの経済・社会に甚大な影響を及ぼし、様々な開発課題を浮き彫りにしました。アフリカが新型コロナからのより良い回復を実現し、繁栄を享受するためには、まず前提として地域の平和と安定が確保されることが重要となります。そのためには、若者を暴力的過激主義に走らせない雇用・教育機会の提供も必要となります。日本が推進するNAPSAは、このような紛争・テロの根本要因にアプローチしようとするものです。また、日本としては、アフリカにおける法の支配及び民主主義の定着を後押ししていく考えです。その上で、日本政府は「グリーン」と「デジタル」を成長の新たな原動力と位置付け、大きな潜在力を有するアフリカでの民間セクターの活動を後押しし、現地の雇用拡大・地域経済の発展に繋げていく考えです。

御列席の皆様、

国際社会が益々複雑に変動し不確実性が増す中、日本は、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向けた取組を進めています。このビジョンでは、アフリカ域内の交易や連結性の強化も重要となります。日本としても、インフラ開発等を通じた連結性強化、アフリカの域内統合に向けた取組を後押ししていきます。また、日本は、このビジョンの下、法の支配に基づく海洋秩序の維持・強化、テロ・海賊対策を含めた平和と安定の確保に引き続き取り組んでいく考えです。



また、日本は、来年の国連安保理非常任理事国選挙に立候補しており、アフリカ諸国の皆様の声に耳を傾け、アフリカの平和と安全のために、より大きな役割を果たしたいと考えています。さらに、安保理改革を進展させ、アフリカに対する歴史的不正義を正すべく、アフリカとの連携を強化していきたいと考えています。

来年のT I C A D 8においては、アフリカ自身が主導する発展を力強く後押しすべく、日本として、国際的な連携を強化する機会にしたいと考えます。本フォーラムでの議論を通じ、アフリカの平和・安全保障のための協力が一層強化されることを祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)